

皮膚科

1. スタッフ（平成29年4月1日現在）

科 長（准 教 授）村田 哲
 外来医長（准 教 授）小宮根真弓
 病棟医長（准 教 授）前川 武雄
 医 員（教 授）大槻マミ太郎
 （講 師）神谷 浩二
 （助 教）佐藤 篤子
 唐川 大
 シニアレジデント 5名

2. 診療科の特徴

当科では皮膚に症状のある疾患すべてを扱うが、大学病院としての性格上、悪性黒色腫を中心とする皮膚悪性腫瘍、そして水疱症や膠原病、乾癬や重症アトピー性皮膚炎などの慢性の免疫疾患が多いのが特徴である。

2016年は、2015年と比べて入院患者数は423人から517人と大きく増加した上に、平均在院日数は9.4日から12.7日へとわずかに延長した。これは、長期間の入院が必要な自己免疫性水疱症や末期悪性腫瘍などの患者がいる一方で、非常に短期間の入退院を繰り返す、がん化学療法患者が増加したことが影響しているものと思われる。その中でも、再発性悪性黒色腫患者の免疫チェックポイント阻害剤投与症例の増加の影響がもっとも大きく、入院患者の疾患分類別の患者数をみると、皮膚悪性腫瘍は、2014年179人、2015年219人、2016年321人とここ数年で大幅に増加している。その他の疾患分類の入院患者の動向には大きな変化は診られない。

入院手術数に関しては、手術枠の制限もあり、あまり変化なく、例年とおりの数字となっている。全身麻酔下の悪性黒色腫切除術や、頸部、腋窩、骨盤、鼠径リンパ節郭清、センチネルリンパ節生検等も例年と大きく変化なかった。下肢静脈瘤の外科的治療は、2013年26人、2014年77人と約3倍に増加したのち、2015年27人と減少後、2016年は34例と増加した。

外来は午前に初診と一般再診、午後は専門外来を設けている。専門外来は、より専門性の高い診療を必要とする疾患、すなわちアトピー性皮膚炎、乾癬、水疱症、膠原病、脱毛症、皮膚悪性腫瘍、皮膚レーザーなどに対するもので、県内だけでなく他県からの紹介患者も数多く来院している。外来ではレーザー治療以外にも紫外線療法、そして簡単な植皮を含めた手術を行うことも可能である。また、外来で診断や治療方針に苦慮する症例について、教授以下全員で診察する機会（外来クリニカルカンファランス）を設けているほか、皮膚生検を行った症例では病理カンファランスでの検討も行っており、個々

の患者に即した最善の治療を皮膚科全体として追求するシステムを構築している。

関節リウマチや炎症性腸疾患と並ぶ免疫疾患である乾癬については、2008年の栃木県患者会の立ち上げ以来、専門外来メンバーを中心に啓発活動を精力的に行ってきた。2010年に皮膚科領域で初となる生物学的製剤が承認されたことに伴い、その導入目的の入院を含め、外来と入院の連携、および県内・県外の皮膚科医や一般医との連携が強化されている。

なお、新規開発臨床試験(治験)は、乾癬が中心となっているが、それ以外にアトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症を対象とするものも扱った。

・認定施設

日本皮膚科学会認定専門医指定施設

・専門医

日本皮膚科学会専門医

大槻マミ太郎

村田 哲

小宮根真弓

前川 武雄

神谷 浩二

佐藤 篤子

皮膚悪性腫瘍指導専門医

前川 武雄

がん治療認定医

前川 武雄

下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医

前川 武雄

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	2,019人
再来患者数	26,220人
紹介率	97.1%

2) 入院患者数

入院患者数	517人
一日平均患者数	9.0人
平均在院日数	12.7日

疾患分類	患者数
湿疹・皮膚炎・蕁麻疹・痒疹	14
角化症・炎症性角化症・膿疱症	42
膠原病・類症・血管炎	1
水疱症	14
薬疹・中毒疹・ウイルス性発疹症	25
急性・慢性膿皮症	5
皮膚潰瘍・褥瘡・熱傷	10
皮膚悪性腫瘍	321
皮膚良性腫瘍	33
母斑	16
下肢静脈瘤	34
多汗症	2
合計(人)	517
平均年齢(歳)	62.5
男:女	286:231

	入院	外来
皮膚悪性腫瘍切除術	94	68
皮膚腫瘍・血管腫切除術	48	317
創傷処理・皮膚切開術	0	38
デブリドマン	7	0
母斑レーザー(全麻下)	6	0
静脈瘤手術(含:血管内レーザー)	34	0
センチネルリンパ節生検	11	0
リンパ節郭清術	9	0
植皮術	55	0
皮弁・筋皮弁術	31	16
その他(生検含む)	52	534
エキスパンダー	2	0
合計(件)	349	973

麻酔別手術統計

	病棟	外来
局所麻酔	140	957
腰麻・全麻	87	0

3) カンファレンス症例数

	症例数	カンファレンス率*
外来カンファレンス	280	13.9%
病理カンファレンス	239	20.7%

*外来カンファレンス率＝

カンファレンス症例数／新来患者数 X100

*病理カンファレンス率＝

カンファレンス症例数／病理提出件数(1153) X100

4. 2017年の目標・事業計画等

1. アトピー性皮膚炎、脱毛症、乾癬、水疱症、膠原病、悪性腫瘍等に対して、当科では専門外来において重症難治な患者の治療を充実させるよう努力している。

さらに、これら難治性疾患の治療と疾患の理解に

関して、県内外の皮膚科医や一般医との連携を深めるべく、種々の研究会や懇話会をエリアごとに定期開催を継続する。

2. 皮膚外科関連は、原発巣広範囲切除や再建、所属リンパ節郭清等の侵襲の大きな外科的手術は、栃木県内で施行可能なのは、当院と獨協医大2施設のみのため、来年度も同様に、県内外近隣地域の中心的な施設としてありつづけ、安全に手術治療を遂行するために、更に技術の向上に努める。また、近年、全身麻酔に耐えられないような超高齢者の進行した皮膚悪性腫瘍の紹介が増加しており、より早期に診断紹介できるように、関連病院や医院との協力可能な体制の構築を行う。
3. 下肢静脈瘤治療も当院では外科治療は当科が主に行っているが、診断から、軽症例の保存的治療、術後の長期的な指導も含め、さらに充実・発展を目指したい。